

令和5年度高梁・新見地域認知症疾患医療センター地域連携会議  
新見部会研修会（第2回）

日時：2024年2月22日（木）18：30～20：30

方法：集合研修

会場：新見市役所南庁舎 3階大会議室

参加人数：70名

共催：新見市医師会

テーマ：認知症の薬物療法～新薬“レカネマブ”の運用を含めて～

今回の研修会では、支援者の方を対象に「①認知症の薬についての情報のアップデート、②認知症の薬についての考え方や薬の役割を確認する」ことを研修の目的とし、講演を踏まえて認知症の新薬として運用が開始されたレカネマブや日頃の業務の中で薬に関して感じていることをグループワークの中で話し合いました。昨年度の第2回研修会に引き続き、新見医師会との共催です。

当日の進行は以下のように行いました。

- ・全体の司会進行 新見地域在宅医療支援システム研究会（まんさく） 難波美保子氏
- ・研修会
  - ・開会挨拶 新見医師会 太田隆正会長
  - ・講演 「認知症の薬物療法～新薬“レカネマブ”の運用を含めて～」  
さきがけホスピタル・クリニック  
岡山県認知症疾患医療センター 児玉昌純センター長
  - ・グループワーク 進行：哲西町診療所  
地域連携会議新見部会 土井浩二部会長
  - ・まとめ 児玉昌純センター長
  - ・新見医師会よりのおしらせ
  - ・閉会挨拶 認知症疾患医療センター地域連携会議新見部会 土井浩二部会長

講演では、令和5年12月より運用が本格化した認知症新薬のレカネマブについてや、現在認知症の方に用いている主な薬についての話を児玉より行いました。また、グループワークでは6～7人で構成された11のグループに分かれて（1）レカネマブについて、（2）薬物療法の考え方について のふたつのテーマをもとに、講演を聞いて感じたことや考えたことについて話し合いました。（1）については、「まだまだ情報が少なく、地域的に使用に踏み切るのも継続するのも難しいように感じる」「投与可能な状態であることを誰が判断するのか」など、新しい認知症の薬としての期待を抱きつつ、今はまだ不安な面が多いという意見が目立ちました。（2）については、「こちらが薬の必要性を周囲が感じて、本人や家族が拒んでしまってそうこうしているうちに認知症が進んでしまうようなケースがある」「独居や老々介護でそもそも内服を確認できる人がいない」「薬をただ使うだけでなく、主治医と相談しながらの薬剤調整とケアの工夫で少しずつ落ち着いてくるケースがあった。試行錯誤が大事だと思う」と、日頃関わりのあるケースから実際に良かったことや困った事、他の職種の人ならどう考えたりどういう対応をしたりするのかなど、話し合うことが出来ました。

今回の研修会では、地域支援者の方々の新薬であるレカネマブに対する関心の高さがうかがい知れ、また、多職種でのグループワークを行うことでそれぞれが普段感じているケアや医療に対する思いをたくさん聴くことができました。ありがとうございました。